

Q7 <流れ図③>整理した情報から課題をどのように抽出しますか。



特別支援学級担任

課題を抽出するとは何ですか。

課題が多すぎて、どのように抽出するのでしょうか。



通級指導教室担当



特別支援学級担任

実態の中での優先順位を、どうつけるか分かりません。

A 整理した情報を「できること」「もう少しでできること」「援助があればできること」「できないこと」に分け、視点を決めて課題を抽出します。

整理した情報は、「できること」「もう少しでできること」「援助があればできること」「できないこと」に分けることができます。

これらのうちから、その年度の指導目標（ねらい）の設定に必要な課題に焦点を当てますが、何に着目して課題の抽出を行うか、抽出の視点を決めます。この視点は、校内や次年度の引継ぎにおいても共有しておきましょう。

視点の例としては、

- その課題が改善されると発達が促され、他の課題の改善にもつながっていくものを抽出する
- 本人や保護者の願い、要望があるものを抽出する
- 「援助があればできること」のうち、障がいの状態等を踏まえれば、現状を維持していくことが妥当であるものは除く
- 「できないこと」のうち、数年間指導を継続してきたにも関わらず習得につながる変化が見られないものは除く
- 現在の姿から数年後や卒業後に目指す姿との関連が弱いものは除く
- 類似している課題はまとめる 等が挙げられます。

記述方法についても、

- 整理した実態から、そのまま転記する
- 課題が同じ実態は、まとめて記述する

等、あらかじめ決めておくと、作業しやすくなります。

各学校で視点を決め、複数の教師で検討する体制が求められます。
校内で複数の体制を組めない場合は、近隣の特別支援学校の巡回相談員（特別支援教育コーディネーター）を活用しましょう。

